



# 「スマホに子守りを させないで」

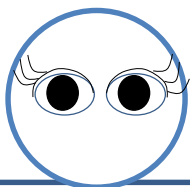


スマートフォンや電子機器は情報を得るツールとしても、コミュニケーションのツールとしても非常に便利で有用な道具です。最近では、赤ちゃんが泣きやむようなアプリや、叱ってくれるようなアプリもあり、子どもが泣きやまないときや言うことを聞かないときに頼りたくなります。

しかし、そういった便利さの裏にひそむ問題について知り、使い方をうまくコントロールしていくことが大切です。

## ●● アイコンタクトと情緒の発達 ●●

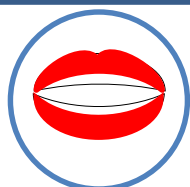
大人がスマホに多くの時間を割くことで問題なのは、子どもとのアイコンタクトが少なくなってしまうことです。このことは子どもの心身の発達に、よくない影響を与えかねません。目と目を合わせて語りかけることで、子どもは安心感と大人に対する愛着を感じ、情緒の発達にはとても大切なことです。



## 大切なのは「実体験」と「五感」



子どもは、いろいろな体験を積み重ねていく中で、見る・聞く・触る・味わう・匂うの「五感」をバランスよく使っていくことが脳の栄養となり、豊かな感受性や安定した情緒の発達につながります。そんな発達の途中にいる子どもたちを、指先の動作と画面の中のできごとであるスマホにどっぷり漬からせてしまうと、「五感」を刺激する機会を奪いかねません。



日本小児科医会は2013年に『**スマホに子守りをさせないで!**』というキャッチフレーズで、啓発ポスターを作成しています。(一部抜粋)

### \* 推奨されている内容 \*



赤ちゃんを目と目を合わせ、語りかけることで赤ちゃんの安心感と親子の愛着が育まれます。



親子が同じものに向き合って過ごす絵本の読み聞かせは、親子が共に育つ大切な時間です。



散歩や外遊びなどで親と一緒に過ごすことは子どもの体力・運動機能そして五感や共感力を育みます。



### \* 出来るだけ避けていただきたい内容 \*



ムスがる赤ちゃんに、子育てアプリの画面で応えることは、赤ちゃんの育ちをゆがめる可能性があります。

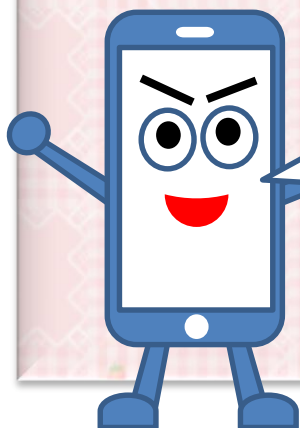


親も子どももメディア機器接触時間のコントロールが大事です。親子の会話や体験を共有する時間が奪われてしまいます。



親がスマホに夢中で、赤ちゃんの興味・関心を無視しています。赤ちゃんの安全に気配りができていません。

子どもは、この一瞬一瞬も日々成長しています。昨日までできなかったことが今日できるようになり、できるようになるまでに努力している過程を見逃すことのないようにしたいものです。



ボクを便利に使うのはいいけれど、子守りはちょっと苦手です。  
ボクに子守をさせないで!!

ほげんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>